

先生はオリンピック

オリンピック出場経験アスリート(オリンピック)が先生となり、「オリンピックの価値や精神」を伝えることを目的とした「JOC オリンピック教室」が、9月20日に霞ヶ関東中学校で開催されました。運動の時間では大縄跳びやそりリレー、座学の時間ではオリンピックに関するクイズやグループワークが行われました。授業を通して、「ベストを尽くすこと」「みんなで協力し合うこと」等のオリンピックの価値を学びました。家納亜季さん(中学2年生)は「オリ



石野枝里子さん(トリノ大会スピードスケート日本代表)



荻原健司さん(長野大会ほか3大会スキー・ノルディック複合日本代表)

ンピックが身近なものに感じられた。オリンピックの価値は日常生活の中でも生かせると思った」と晴れやかな笑顔で話してくれました。

受け継がれる伝統行事



36本の竹ひこがついたホロを背負います

9月18日に、古尾谷八幡神社で県指定無形民俗文化財のほろ祭が行われました。ホロを背負うのは地域の小学生の男の子4人。ホロシヨイッコと呼ばれ、およそ10kgあるホロを背負い、回りながら歩きます。

「よいしょ」というかけ声とともに、ホロがふわっと広がる様子は、ピンク色の花が咲いたよう。今回、ホロシヨイッコとして参加した嶋田和流さん(小学4年生)は「ホロが重くて大変でした。足が痛くなったけれど、一生懸命回りました」とほっとした表情。周りの人たちに励まされながら、見事に最後まで歩き切りました。



ひとまち

ふおとニュース

ひとまち



9月22日、初雁公園野球場で(公社)川越青年会議所主催の「小江戸川越初雁フェス in HATSUKARI STADIUM」が行われました。第1部と第2部でテーマを変えて開催された「心躍るまちづくりシンポジウム」では、市民・学生・まちづくり団体などが出演者となって、さまざまな視点から川越の未来について活発な意見交換が行われました。第1部に出演した東京国際大学3年生の大谷直哉さん(写真左上右・入間市)は「VR(仮想現実)を利用して、川越の名所を回れるようにしたい。川越を知ってもらい、楽しんでほしい」と力強く語っていました。

川越を世界に発信!

9月22日、初雁公園野球場で(公社)川越青年会議所主催の「小江戸川越初雁フェス in HATSUKARI STADIUM」が行われました。

第1部と第2部でテーマを変えて開催された「心躍るまちづくりシンポジウム」では、市民・学生・まちづくり団体などが出演者となって、さまざまな視点から川越の未来について活発な意見交換が行われました。

また当日行われた肉の祭典では、市内の飲食店15店が出店し、ハンバーガーやスペアリブ等さまざまな肉料理が販売されました。あいにくの天気の中、多くの家族連れが、ここでしか味わえない料理をおいしそうに食べていました。



第2部のシンポジウムの様子



第2部のシンポジウムの様子



おもしろな肉=ストビーフにっこり

